

日時 令和元年6月3日(月) 15:40~16:40

場所 校長室

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 紹介 学校運営協議委員の紹介及び会長・副会長の選出と承認
事務局の紹介

4. 事務局報告

- ①校長より「平成31年度(令和元年度)学校経営計画及び学校評価」について(別紙)
- ②各分掌・系より 目標設定提示(別紙)

生活指導部・進路指導部・総務部・普通科・産業創造系・機械系・電気系が要旨を説明

5. 全体協議

○オープンスクールのチラシにあるように来年からの改編にともなって、入試募集人数が280人から今年度240人。そして210人と減っていく状況がある。今年度も募集定員を超えたことは喜ぶべきことで、少数精鋭という印象を受けるが、実際に今年の新入生の状況はどうか？

Ans. 比較的優秀であり、それは成績面だけでなく、合格者説明会の際に受験票を忘れてくる生徒が少なかったり、クラブ加入率が高くなっている状況もある。これらに関しては地元から本校をよく理解していただいて、選んで入学してくれていることの現われでもあると思う。

○大学のオープンスクールやオープンカレッジに参加してもほとんどの学生が入学してこないのに対し、佐野工科オープンスクールの結果を見ると6割ぐらい入学してくる状況が分かった。努力されたからこの結果であると思う。

○入試倍率は生徒の状況に関連が深いように思う。データーを観れば定員が割れた学年は転学・退学や遅刻者が増えるような状況になっている。

Ans. 定員が割れるとどうしても様々な課題を持っている生徒が入学してくることが増える。以前であればそのような生徒は退学や転学をすることが多くあったが、2年前からそのような生徒を丁寧に指導することを学校方針として取り組んでいる。結果として辞めずに進級をしていく。その影響として遅刻数が増えたりもするが、大きな意味では中学校にもご理解いただいております、結果として地元から支持をいただいていると考えている。

○資料で見ると家庭との連携に課題があるようにも見えるが。

Ans. 昨年度家庭との連携を課題ととらえ、取り組みを行った結果、学校教育自己診断での保護者の満足度は上がり、良い関係を保っていると思う。

○(中学)卒業生がたくさんお世話になっている。来年度新しい改編にともなって定数が減ることが、中学校にとってはハードルが高くなるのが心配である。生徒には中身がよりよく伝わればよいと思う。オープンスクールでは授業を見せてもらえるのか？

Ans. 今年度は夏のオープンスクールでも3年生の授業を見ていただける。生徒の参加を促すことで生徒の成長も期待できる。

○オープンスクールを土日に開催できないものか？

Ans. 2回目は11月24日で日曜日に開催します。

○PTAは積極的に活動されていると思うが、どのような課題があるのか？

○ものづくり教室などでは講師役などを依頼し、できるだけ多くの生徒さんにかかわってもらえるようにしている。

○学校振興会の支援金を2,000円に引き下げたが。

Ans. 会費等の見直しについて、生徒活動支援の必要性から昨年度 PTA 会費を 3 千円から 4 千円に上げたが、その代わり学校振興会支援金の寄付金額を 5 千円から 2 千円に下げた。結果、収入減も心配されたが、PTA のみなさんのおかげで、協力人数も以前の 40 数名から 161 口に増え、総額も上がる良い結果となっている。

○工科高校としての魅力、オープンスクールの内容に期待しているということ、ものづくりの取り組み成果からこんなに受賞していることや、つくる楽しみを実感している生徒の様子が分かった。先生方が出張や休みの日にも出てきて目標に向かって指導されたがんばりが見える。

○オープンスクールでのアンケート結果を見ると意識が高いのが見て取れる。

Ans. 目標・目的をもってきてくれる生徒、佐野工科に行ってこんなことがしたいという生徒が増えるように、広報活動を通じて伝えていきたい。偏差値とは違う価値観で佐野工科高校を希望する生徒を増やしたい。

6. まとめ

○再編整備についての資料が示されているが、説明願いたい。

Ans. 佐野工科は大阪で唯一の産業創造系を有する工科高校である。創造性教育を特色化した工科高校である。それを改編でさらに進めて将来の工業教育に対応できるように目ざしている。具体的には無線 LAN 環境を整備してインターネット上の情報をいつでも検索できる環境を整備し、そのうえでアイデアをすぐに形にできる工作機械を整備し、PDCA サイクルに基づいたものづくりをできるようにし、自ら改善行動をできる産業人を育てることを目標としている。

7. 佐野工科 地域連携活動について（別紙）教頭

外部との連携での活動で依頼されたものはできるだけ受けてきた結果、用紙 2 枚分の報告に増えた。機械系が行っている地元企業とのコラボや、商工会議所の商工祭りなど PR できるものは今後も参加していきたい。

8. 校長挨拶

9. 閉会

・その他、連絡事項 第 2 回 昨年度は 10 月 今年度も同様に 9 月に日程案内をして調整する。